

令和7年度 ゆずの樹はうす 事業報告書

1 総括

ゆずの樹はうすは令和4年度に開設以来、慢性的な職員不足により開所日を限定せざるを得ない状況が続いている。そのため利用登録者を積極的に募集することが出来ず、7年度は新規に2名の受け入れが限界であった（6年度末登録者9名、7年度末11名、6年度迄の登録者の内2名は7年度利用実績なし）。体験利用は6年度比で若干の伸びはあったが、緊急時の受入が減少し、稼働率は6年度の34.2%に対して29.9%と減少する結果となった。自立生活に向けた体験利用の場や緊急時の対応に対する地域のニーズに対してその社会資源は少なく、ゆずの樹はうすは人員確保により、その機能拡充を図っていくことが求められる。また、新規利用希望者は上述の2名の他に2名がいたが、内1名は同性介助の問題（女性スタッフの不足）、他1名は医療ケア対象者のため（医療職の不在）断らざるを得ない状況であった。同性介助については早急に女性スタッフの確保を進め対応を急ぎたいが、医療スタッフの配置については人材の確保の他、経営資金の課題が大きく、課題解決には時間を要すると考えている。医療ケアが必要な方が安心してショートステイを利用できるようになることは地域の大きな課題である。関係機関と課題の共有のうえ、地域全体で向き合っていく必要性を感じている。

2 事業概要

- 1) 施設名 ゆずの樹はうす
- 2) 事業種別 短期入所事業（共同生活援助併設型）
- 3) 所在地 東京都小平市栄町2-1-15
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 1名
- 6) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 7) 事業指定年月日 令和3年4月1日
- 8) 職員 管理者 1名
 - サービス管理責任者 1名 （常勤換算 0.2）
 - 世話人 8名 （常勤換算 6.1）
 - 生活支援員 12名 （常勤換算 6.4）（全て併設しているさかえホームと兼任）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援
 - 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
 - 安心と希望のもてる生活

4 基本方針

- 1) 一時的な生活支援

家族または介護者が何らかの理由（冠婚葬祭、病気、事故、休養、その他の理由）により、一時的に自宅で支援することが困難な場合に、日常生活に必要な支援を行う。
- 2) 生活体験としての支援

生活体験の幅を広げ、より豊かな生活を支援する。

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理

- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

5時00分～	7時30分	起 床
7時30分～	9時30分	日中活動先及び勤務先等へ外出
16時00分～	17時00分	利用開始
16時00分～	20時00分	入 浴
18時00分～	19時00分	夕 食
20時00分～	22時00分	就 寝

7 重点課題・目標

1) 活動

(1) 職員の増員に応じて段階的に体験利用登録者を14名に増やし（令和6年3月末現在9名）、体験利用登録者の内、希望者については1か月に1回以上利用できる支援体制を整える。

【成果と課題】

7年度当初の体験利用登録者は9名であった。年度内の新規の体験利用相談者は7名で、見学を経て4名が体験利用登録を希望した。2名は受け入れを行ったが、その他の女性の希望者1名については同性介助の都合により（女性の夜勤スタッフの不在）断らざるを得なかった。男性専用のグループホームとの併設であり、女性の常駐スタッフの確保が困難という状況であったが、積極的に対策を講じることがなかったことは反省点となった。また、他1名は医療的ケアが必要な方であり、医療スタッフが配属されていないゆずの樹では受け入れが困難な状況であった。総括に記載のように今後地域でこの課題に取り組む必要があると感じている。年度末の登録者は11名で目標の14名には達しなかったが、現在の支援体制では11名の受け入れが限界と考えており、登録者を増やすには職員の増員が必要となっている。体験利用登録者11名のうち7年度は9名が概ね希望通り利用し（3名：毎月1回以上利用、6名：数か月に1回利用）、利用延べ人数は6年度比で若干増加した。また、緊急利用は6年度に比べて希望が少なく減少となった（表1参照）。また、土日祝日の職員体制が特に不足しており、利用は平日が中心とならざるを得ない状況であった（表2参照）。7年度の稼働率は29.9%と低水準であったが、開設年度以降の推移をみると稼働率全般では横ばいではあるが、体験稼働率は少しずつではあるが増加している（表3参照）。

表1《利用目的別実績》

	実人数	(6年度)	延人数	(6年度)
体験利用	9名	(7名)	97人	(76人)
緊急利用	2名	(2名)	12人	(49人)
合計	11名	(9名)	109人	(125人)

表2《曜日別実績》（令和7年2月末現在）

	実人数	(6年度)	延人数	(6年度)
平日	10名	(7名)	108人	(115人)
土日祝	1名	(2名)	1人	(10人)
合計	11名	(9名)	109人	(125人)

表3《年度別稼働率の推移》

	稼働率	内緊急時稼働率	内体験稼働率
令和4年度	34.2%	33.2%	1.0%
令和5年度	22.7%	10.4%	12.3%
令和6年度	34.2%	13.4%	20.8%
令和7年度	29.9%	3.3%	26.6%

(2) 緊急時については、体験利用に優先して受け入れを行う。

【成果と課題】

3名より緊急の利用相談があり、2名を述べ10日間希望通り受け入れた（表4参照）。希望日が空室であったため体験利用者の調整をせずに受け入れることが出来た。残りの1名は、相談のみで結果的に利用希望はなかった。

表4《令和7年度緊急利用の実績》

利用者実人員	2名	（6年度	2名）
利用延日数	12日	（6年度	49日）

(3) 利用者の支援内容を充実する

- ① 利用者の心情理解に努め、安心して過ごせる環境設定を行う。
- ② PDCAサイクルの実施
- ③ 事故防止
 - ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
 - ・無断外出行為のある利用者の安全確保のため、見守りを徹底する。また、必要止むを得ない場合は本人、家族の同意を得て夜間の建物施錠を行う。
 - ・個々の利用者の行動特性に応じた危機管理方法を定め、共有する。

【成果と課題】

- ① 利用者の状況について情報共有を行い、本人の嗜好や生活スタイルを尊重して支援にあたるよう心がけ、全体的に概ね安心して過ごしているように感じられた。初めての利用者に対しても通所先等からの情報提供によりスムーズに支援にあたることができ、本人にも混乱や不安などの様子は見受けられなかった。
- ② 7年度利用があった11名の内、8名の個別支援計画を作成した（未作成3名の内1名は緊急の一時的な利用者、2名は利用頻度が少なく次年度作成予定）。支援計画は5年度末より作成しているが、これまでは抽象的な記載が多く、実際の支援に活用しにくいことが課題であったことから毎年修正を行ってきた。7年度はやや改善が図られ具体的な支援方法等が整理されてきている。また、職員体制が4名で少人数ということもあり情報共有や支援方法の統一がしやすく、支援の統一は概ね実施できた。
- ③ マニュアルの遵守や利用者の行動特性などを職員間で共有し、服薬に関する事故やけが、離接等の事故は起きなかった。

2) 人材育成

(1) 併設のさかえホームと合わせて常勤換算13.5名の支援体制の安定確保

(※6年度末の見込常勤換算10.8名)

- ・職員募集のチラシを掲示する（短期入所建物のほか、法人内通所事業所の建物にも依頼）。
- ・法人外の会議や関係機関等へ積極的に求人の呼びかけを行う。
- ・ハローワーク、求人誌、人材紹介、派遣職員などの各種媒体を通じて職員募集を行う。

【成果と課題】

法人の求人活動のほか、独自に建物への職員募集チラシの掲示や地域の会議等での広報を行った。7年度末の職員数は昨年度末の職員数常勤換算から1.7名増の12.5名となったが（配置基

準 8. 6 名)、目標の職員数に常勤換算 1. 0 名不足している。職員が充足していない曜日は、他の曜日に勤務している職員の勤務増で支援体制を確保した。

- (2) 職員間の連携・情報共有によるチーム支援の充実を図る
 (3) P D C A サイクルに基づいた支援の実施
 ① 適切な個別支援計画の作成と職員間共有
 ② 計画に基づいた支援とその記録
 ③ 支援経過や効果の評価
 ④ 必要に応じた計画の見直し
 ⑤ 月 1 回ケースの検討会議による支援経過の確認及び支援方針の検討
 (4) 業務標準化
 ① 日常の利用者支援における基本的な確認事項(衛生面、服装、整容、体調確認、持ち物等)を掲示し、職員は支援業務に入る前に毎回確認する。
 ② 実際の支援を通し、施設長及び現場責任者から職員へ支援方針や具体的な支援内容を伝え、支援の統一を図る。

【成果と課題】

- (2) 情報共有については、管理者及び現場責任者より職員へケース記録をもとに主に口頭伝達により行った。体調面や心情面、直近利用時の利用者の変化の有無などが共有され、当日の支援に活かすことができ、スムーズに連携が図られた。
 (3) 1) (3)、②に記載の通り。
 (4) ①体調や身だしなみ、忘れ物等についての細やかな気づきや配慮等については数年来の課題であったが、基本的な確認事項のマニュアルを継続的に活用したほか、主に現場責任者の指導により業務の標準化は徐々に進んできている。
 ② 1)、(3)、②に記載の通り。

8 経営管理

- 1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。

- 2) 介護給付費収入等の安定確保を行う。

・ 目標利用率：	6 5 %
【令和 7 年度目標額】	
・ 介護給付費収入	約 2 3 0 万
・ 都加算収入	約 1 0 0 万
	約 3 3 0 万

【成果と課題】

利用率は 2 9. 9 % と目標の 6 5 % を 3 5. 1 % 下回った。これに伴い介護給付費収入等の収入も約 1 8 5 万円と目標の 3 3 0 万円を約 1 4 5 万円下回った。前年度比で利用実績が 4. 3 % 減少したが、区分が高い利用者の利用が増え収入は増収となった。

《利用率》	令和 6 年度期実績	令和 7 年度実績	前年度との差
	3 4. 2 %	2 9. 9 %	△ 4. 3 %
(内訳)			
平日	3 1. 5 %	2 9. 5 %	△ 2. 0 %
日祝	2. 7 %	0. 4 %	△ 2. 3 %
《給付費等収入》			
	令和 6 年度実績	令和 7 年度実績	前年度との差
介護給付費収入	約 1 0 2 万円	約 1 2 3 万円	約 2 1 万円
都加算の収入	約 5 6 万円	約 6 2 万円	約 6 万円
総額	約 1 5 8 万円	約 1 8 5 万円	約 2 7 万円

9 事故報告

なし。

10 夜間等緊急時の対応

夜間については、緊急対応が必要な事案は発生しなかった。

11 実施状況

1) サービス実施日数 自：令和7年4月1日 至：令和8年3月31日

109日間(内、土・日・祝日開設1日間)

12 利用状況

1) 利用登録者数 13名

2) 実利用者数 11名

(1) 利用目的

①緊急利用 2名 (令和6年度 2名)

②体験利用 9名 (令和6年度 7名)

合計 11名 (令和6年度 9名)

(2) 平日・土日祝日利用

①平日 10名 (令和6年度 8名)

②土日祝日 1名 (令和6年度 1名)

合計 11名 (令和6年度 9名)

3) 延べ利用者数

(1) 利用目的

①緊急利用 12名 (令和6年度 49名)

②体験利用 97名 (令和6年度 76名)

合計 109名 (令和6年度 125名)

(2) 平日・土日祝日利用

①平日 108名 (令和6年度 122名)

②土日祝日 1名 (令和6年度 3名)

合計 109名 (令和6年度 125名)

13 利用者状況

1) 年齢別

	実人数	延べ人数
・20歳以上30歳未満	8名	88名
・30歳以上40歳未満	2名	20名
・40歳以上50歳未満	0名	0名
・50歳以上	1名	1名
合計	11名	109名

2) 区分別

	実人数	延べ人数
・区分3	2名	8名
・区分4	3名	35名
・区分5	2名	22名
・区分6	4名	44名
合計	11名	109名

3) 性別

	実人数	延べ人数
・男性	11名	108名
・女性	1名	1名
合計	11名	109名

4) 居住状況

	実人数	延べ人数
・管内居住	6名	35名
・管外居住	5名	74名

1.4 環境の整備

共有スペース及び居室を定期的に清掃し施設内美化を行った。

1.5 健康管理

アセスメントで基礎疾患、アレルギーについて把握を行った。基礎疾患のある利用者はなく、大きな健康問題は起きなかった。家族や関係機関等の送迎時に体調や利用時の様子の申し送りを行った。

1.6 防災計画

さかえホームとともに災害時避難訓練を年2回実施した。